



先どり! 冬の管内イベント情報

寒く厳しい今年の冬、そんな寒い冬を吹き飛ばす
管内の冬イベントと、スキー場情報をご紹介します

2月27日/日

第19回北海道凧あげ大会
第38回苫前町凧あげ大会

会場 / とままえ温泉ふわっと
問合せ / 0164-65-4076

風の強い町苫前町ならではの
風土を利用したお祭り。
町民はもとより、北海道大会も
兼ねていることから全道各地の
凧愛好家が一斉に集い、自慢
の凧を苫前の空に舞い揚げます。



2月12・13日/土・日

第31回
えんべつ冬まつり

会場 / マナビィ21駐車場
問合せ / 01632-7-2115



12日には花火大会もある

2月19日/土

てしおスノーランド
2011

会場 / 天塩小学校グラウンド
問合せ / 01632-2-1001



雪像コンテスト・乗馬体験など

2月20日/日

第22回オロロン
ウィンターフェスティバル

会場 / 羽幌町総合体育館横
問合せ / 0164-62-6030



3月13日/日

第13回
萌っ春待里

会場 / 陸上自衛隊留萌駐屯地グラウンド
問合せ / 0164-43-2637



スキー場情報

開設期間などの詳細は、留萌地域
情報サイト「るもいfan」をご覧
ください。

天塩町民スキー場

時間：10:00～15:00 (土以外)
10:00～16:00 (土)
18:00～20:30 (火木)
電話：01632-4-3163

遠別町幸和スキー場

時間：13:00～16:00 (火木日)
13:00～20:30 (月水金土)
電話：01632-7-3950

初山別村スキー場

時間：13:00～20:45 (土日祝)
16:00～20:45 (火～金)
電話：0164-67-2269

羽幌町営スキー場 びゅー

時間：10:00～17:00 (月土日)
10:00～21:00 (火～金)
電話：0164-62-6800

三角点スキー場

時間：10:00～16:45 (土祝)
13:00～15:45 (日)
18:30～20:45 (月水金土祝)
電話：0164-65-4076

古丹別緑ヶ丘スキー場

時間：10:00～16:45 (土祝)
13:00～15:45 (日)
18:30～20:45 (月水金土祝)
電話：0164-65-4076

小平望洋台スキー場

時間：9:00～17:00
17:00～20:50 (ナイター)
電話：0164-56-2244

増毛町暑寒別岳スキー場

時間：9:00～17:00 (日祝)
10:00～17:00 (月～土)
17:00～21:00 (火木土)
電話：0164-53-3002

2月13日/日

スキー場まつり

会場 / 増毛町暑寒別岳
スキー場

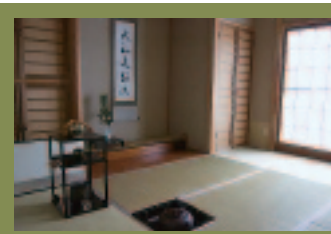
問合せ / 0164-53-1111

ジャンボ滑り台ほかアトラクショ
ンがたくさん。



もてなす

利休梅時絵平目地
(大なつめ)



【旬の人】... P2



安藤園茶舗... P2



仏の耳子の会... P3



【季節の食材】... P3

イベント情報

留萌市

るもいコミュニティカフェテリア

■日 時：2月4日(金)・5日(土)
■場 所：るもい健康の駅
■定 員：各回30名(事前予約制)
■参加料：500円
■受 付：0164-42-3871
(エフエムもえる)



るもいfan

あなたの 人・食・地域の情報おまちしております!
発行・編集 / 地域情報受信システム実行委員会

北海道留萌市船場町
2丁目 JR 留萌駅 2階
TEL: 0164-42-3871
FAX: 0164-42-2200

http://rumoifan.net
毎日情報更新中!

FM もえる 76.9MHz
「わがマチ元気発信」
平日 8:25/12:25/18:25~

ポッドキャスト配信中
るもいfan.net トップページ
「食の交流放送」からアクセス

田中 克子さん

TANAKA Katsuko

百年の志を
受け継ぎ歩む

大和遠州流は小堀遠州公を流祖とする茶道の流派。江戸時代初期にはじまり、武家茶道の精神は現代へと続く。十八代家元が留萌に文化の灯をともしたのは、今から百年遡る。

文化の灯

『多しうの 流れたえせぬ
我が庵に 和敬清寂
みちてあふるる』
十八代家元 蓼沼 紫英 作
御茶歌留多より

明治四十三年十一月、留萌本線開通のその日、一人の女性が幼子の手を引き、留萌の地に降り立った。後の大和遠



田中 克子さん
昭和20年生まれ 留萌市在住
大和遠州流茶道静月流煎茶道
静月会留萌支部 支部長

州流十八代を継承する蓼沼ナオ、そして十九代の蓼沼トミ母娘の姿だ。
当時の留萌はニシン大漁の興奮の中にあつた。一攫千金の夢をその銀鱗に賭けた人々、その熱気にあふれる一方で、茶華道や洗練された文化の教授を求める階層の人々も増え、十八代は裕福な家の子女だけではなく、花柳界に生きる女性達にも熱心に茶道の教授していたようだ。

道、歩む

「裕福な人はお茶を習わなくても、礼儀作法を学ぶ機会はある。そうではない人々にこそ、お茶から学ぶことがある」。十八代の言葉だ。田中さんは大先輩達から伝え聴き、十八代の優しさや信念の強さに心打たれる想いだった。

大和遠州流と田中さんとの出会いは20代の頃。気軽に踏み入れた世界だった。のちに支部長の責務を担うことになると思ってもよらうに。道は、道がつく精神が好きなのかもしれない。男性的ともいえる点前の所作も性分に合っていると感じる。亭主は客の身になり、もてなすという心、これは田中さん自身が信ずるところだ。「美味しかった、楽しかった」と感じてもらえるお茶を心がけ、精進している。

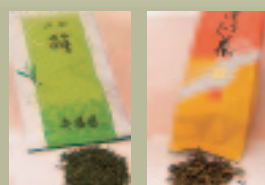


【遠州好みの茶器】 田中さん愛用、遠州好みの茶器。左奥から時計回りに高取、朝日、上野、古曾部。遠州好みとは器物の鑑定に達眼を有していた遠州公が特に賞賛した七つの窯をさす。今も子弟に重用されている。ほかに膳所、志戸呂、赤膚がある。

お菓子を楽しみにお稽古に通うのもいい、次の世代に大和遠州流の『綺麗さび』の精神、きっぱりとした心のきれいな、その中に漂う格式と優美さを伝えたいと願っている。
百年前、留萌の地に降り立った十八代家元の想い、そして、流祖から受け継がれた大和遠州流の精神は弟子達へと伝えられ、綿々と続いている。

安藤園茶舗

安藤園茶舗は日本茶、紅茶、コーヒーや急須、茶道具などを扱うお茶の専門店。創業は大正5年。行商からはじめ、その後、本町に店を構えました。現在は市内中心部に移転し、昭和31年に店を継いだ三代目の安藤勲さん悦子さんご夫婦が今も暖簾を守っている。店主の勲さんは代々受け継がれてきた『伝統と信用』を信条とし、今も昔ながらに店内でお茶を焙じている。焙じたてのお茶を取り扱うのは専門店ならでは。そのこぼれ香りが通りに漂えば、暑いほうじ茶を味わいたくなる。



吟味された煎茶「朝」とほうじ茶
安藤園茶舗
〒077-0044
北海道留萌市錦町3丁目
営業時間 10:00 - 18:00
定休日 日曜日
電話番号 0164-42-0176

新星マリン漁協 仏の耳子の会

貴重な資源

留萌地方の冬の味覚、ギンナンソウ。『仏の耳』とも呼ばれ、人気がある海藻だ。厳冬期、氷が浮かぶほどの冷たい海にばかり、採取する漁師達の姿は冬の風物詩である。採取後は漁師らが雑藻などを取り除き、選別しながら

ら固い根を切り取る。細かい作業を経て、出荷される貴重な海藻だ。

留萌市・小平町の漁業者が加入する新星マリン漁業協同組合では、育てる漁業に力を注いでおり、その取り組みの一つとして、平成21年に仏の耳子の会（岸良斉会長）を立ち上げた。会員は留萌市三泊と小平町白谷の漁師ら18名。留萌南部地区水産技術普及指導所と小平町、地元企業などの支援を受け活動している。「多くの協力を得ており、今

未来に向けて

後も地道に調査を続けたい」と会長は岸良さん。現在、海水の温度や塩分などの測定、沿岸の岩場に付着し成長するギンナンソウの生態観察と生育調査を主に行っている。試みとしてコンクリート・砂利・レンガ・セラミック・御影石などの人工岩礁を投入し、海藻の着生状況を調査している。貴重な資源、ギンナンソウを守り育てる漁師達の活動はこれからも続く。



仏の耳子の会メンバー



人工岩礁の投入試験

新星マリン漁業協同組合白谷支所 仏の耳子の会
〒078-3302 北海道留萌郡小平町字白谷283
TEL: 0164-56-2052

季節の食材 34

ギンナンソウ

ギンナンソウは、厳冬期の北海道地方、岩礁に繁茂する海藻である。学名はアカバギンナンソウ、地元では別名『仏の耳』ともいう。由来は定かではないが、形が仏の耳に似ているという説がある。漁期は1月から2月にかけて、沿岸の浅瀬で採取する。

定番はみそ汁の具。みそを溶いた汁にギンナンソウを放すと、トロリとした食感に。コリコリ感を楽しむなら、椀にギンナンソウを盛りつけてから熱い汁を注ぐと良い。漁師ならではの食べ方には、ラーメンの具材や、しゃぶしゃぶがある。採りたての磯の香りを堪能できる贅沢な料理だ。

いずれにせよ、身を切るような冬の海で手摘みする漁師さんに感謝を込めて、大切に味わいたい。



ギンナンソウのみそ汁
【留萌管内総合食辞典ふるもい食PEDIA】
http://moeru.fm/shokupedia/

【お問い合わせ】
新星マリン漁業協同組合白谷支所
電話番号 0164-56-2052

日本食と縁起



それ意味があることを知り新鮮でした。たくさん種類の野菜を淡白に食べると、年明けを健康で過ごせるのは間違いありません。食べながら感じたのは食べ物に含まれている栄養以外の価値、そして数々のごちそうを作ってくれた人の思いです。

初めてのお正月以来、食べ物に祭日にはもちろん普段の日にも家族、社会、経済と文化を繋げる力があると思うようになりました。一年中地元で育てられた「顔のある」食材を買い、食べ物意識しながら家族や友達と食事を楽しむことで体も精神も健康になります。

「ふるもいフードマガジン」は留萌管内の地産地消・食についての情報交換の場です。どなたでもご参加できます。



主宰 佐藤アレーナさん

ふるもいフードマガジン
〒077-0046 北海道留萌市港町3丁目13番地
TEL/FAX: 0164-42-9757
E-mail: alainasato@hotmail.com